

## 会 議 録

会 議 名	令和2年度 山陽小野田市自立支援協議会
開 催 日 時	令和2年11月12日(木) 14:00～15:15
開 催 場 所	高千帆福祉会館 会議室(2階)
出 席 者	<p>小野田心和園 入来 芳枝          相談支援事業所のぞみ 植木 亨          社会福祉法人神原苑 澤村 知美          宇部公共職業安定所 谷口 健吾          指定障害福祉サービス事業所まつば園 東條 沙和          一般公募 中川 正治          光栄会障害者就業・生活支援センター 中村 研次          山陽小野田市民生児童委員協議会 中村 尚子          山陽小野田精神保健家族会 西澤 咲智子          山口大学大学院医学系研究科 長谷 亮佑          山陽小野田市介護支援専門員連絡協議会 山下 聡之          宇部健康福祉センター 山本 博子          山陽小野田こども発達支援センターとことこ 吉水 多加志          山陽小野田市社会福祉協議会 若松 勇輔          山陽小野田医師会訪問看護ステーション 渡辺 芳枝</p> <p>オブザーバー 市学校教育課 下瀬 昌巳</p>
事務担当課 及び職員	<p>福祉部次長 尾山 貴子          障害福祉課長 岡村 敦子          障害福祉課課長補佐 松本 啓嗣          障害福祉課障害支援係 末永 久美</p>

<p>会議次第</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉部長あいさつ</li> <li>2. 委員紹介</li> <li>3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 相談支援の状況について</li> <li>(2) 地域課題への取り組みについて</li> <li>(3) アンケート結果からみた地域課題について</li> <li>(4) その他</li> </ol> </li> </ol>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉部長あいさつ 福祉部次長（福祉部長代理）があいさつを行った。</li> <li>2. 委員紹介 配布している名簿より委員紹介、その後、事務担当課職員が自己紹介を行った。</li> <li>3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 相談支援の状況について 事務局が説明を行った。 質疑応答はなし</li> <li>(2) 地域課題への取り組みについて 事務局が説明を行った。 質疑応答はなし。 委員：虐待防止及び権利擁護に係る研修会に参加した際、「職員のアンガーマネジメント」についての内容があった。重要な事なので、本市でも取り組みながら進めていければと思う。</li> <li>(3) アンケート結果からみた地域課題について、事務局が説明を行った。 質疑応答は次のとおり 委員：ふれあい運動会が毎年6月くらいに開催されていると思う。教職員や生徒がボランティアとして参加しているが、まず、見て、体験して、ノーマライゼーションに発展していければと思う。 会長：学校関係で特別支援学級の保護者に対してアンケート調査を行っておられるが、市の教育委員会としての取り組みや今後の考え方を教えて欲しい。 オブザーバー：市の教育委員会では、支援教育の支援計画に基づき行っているところであり、現在、多く進めているのが合理的配慮に関する研修である。早期の発見、早期の支援ということで、障がい等がある子どもが入園している園に訪問し、個別の支援計画等の作成を行っている。また、市に特別支援の地域コーディネーターを1名配置しており、コーディネーターは学校に対し、専門的知見からアドバイスを行うなど特別支援教育の充実を図っている。各学校では、保護者と相談し、どのような支援ができるかを個別に連絡をしながら合理</li> </ol> </li> </ol>

的配慮を行っている。

委員：児童発達支援センターでは、子供たちを就学へと進めていくというところで、個別の支援計画等を作成しており、それを学校とセンターとで相互に引き継いでいる。

委員：アンケート結果に「嫌な思いをしたことがある場所」が掲載されているが、具体的にはどのような内容か。

事務局：「仲間はずれ」、「からかい」、「いじめ」、「無視」、「ショッピングセンターで見ず知らずの子に馬鹿にされた」、「第三者からしつけが悪いと思われる」、「子どものとる行動を毎回説明しないと理解を得られない」等が記載されていた。

委員：嫌な思いをした場所が商業施設であれば、他の利用客から受けた事なのか。

事務局：商業施設の人からか他の利用客からかどうかは、アンケート結果からは読み取れない。

委員：受け止め方もあるかもしれないが、障がいが見えない場合もある。特に発達障がいの子どもの場合、「しつけが悪い」と見られることがあり、まだまだ障がいに対しての理解が社会全体に浸透していない。それは課題である。

商業施設などで子どもたちに買い物や食事をさせてもらうなかで、理解を深めてもらうことができたという経験がある。保護者の意見、当人の意見もあると思うが、障がいに対しての理解を社会に浸透させていくためにも、小さな努力を続け、協議会での意見交換を職場に持ち帰り、少しでも広げていきたいと思う。

委員：9ページ問Bの「嫌な思いをした場所」のグラフでは、「地域・商業施設」とあるのに、他のページの「嫌な思いをした場所」のグラフでは「住んでいる地域」「商業施設」と別れているのはなぜか。

事務局：アンケート時の設問番号が重複してしまい、そのようなグラフになってしまった。番号での回答なので区別ができないため、合わせた集計となった。

委員：13ページ問Dの説明文に「わからない」が最も多いとなっているが、「少し足りないと思う」が最も多いと思うが間違いではないのか。

事務局：記載誤りである。

#### (4) その他

第6期障がい者福祉計画、第2期障がい児福祉計画を計画検討委員会で進めていることを報告。

会長：パブリックコメントは行うのか。

事務局：12月中旬から実施する予定である。

会長：ホームページ上などで公開されると思うのでよろしくお願ひしたい。

障害福祉課長のあいさつの後、閉会。